資料１－３
科学技術・学術審議会　学術分科会
人文学・社会科学特別委員会（第９回）
令和４年１月２８日

人文学・社会科学に関連するモニタリング指標に関する論点

１．論点の背景

〇「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて（審議まとめ）」
（平成 30 年 12 月 科学技術・学術審議会 学術分科会
人文学・社会科学振興の在り方に関するワーキンググループ）【抜粋】

- 自然科学と同様に論文数や被引用度などの研究指標が採用されているが、人文学・社会科学においては**書籍の刊行もまた重要な成果の発表手段**となっている実態がある。
- 学術論文については、テーマ自体がそれぞれの**国や社会のコンテクストに左右される**こともあり、論文が採択されること自体の意味がそれらの違いによって異なる場合もある。
- 研究成果の公表の在り方や評価基準等を標準化するのが難しい**人文学・社会科学と自然科学の間では、状況が同一でない側面は考慮されるべき**である。
- 論文のテーマや枠組みが特定の国や社会のコンテクストと独立ではないがゆえに、**国際的な発信を行う際には、国内に向けた発信とは異なる配慮が求められる。そこに、国際ジャーナルに刊行された論文が直ちに国内的に評価されるわけでは構造が存在**する。（中略）国際的な発信への評価が適正になされるような学術環境の整備が強く求められる。
- 学術全般についても当てはまることではあるが、特に **人文学・社会科学に対する支援を確固たるものにするためにも、国民一人一人に対して積極的に、人文学・社会科学が自ら経済的価値も含め「役に立つ」ということの発信を継続することが重要**である。

２．人文学・社会科学特別委員会で検討する論点（案）

「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて（審議まとめ）」の趣旨に鑑み、論点として以下のような方向性が考えられるのではないか。

① どのような活用目的を前提に、人文学・社会科学に関連するモニタリング指標を設定するべきか

② 人文学・社会科学の特性に応じた多角的なモニタリング指標をどのように設定するべきか

③ 人文学・社会科学に関連するモニタリング指標の国際的通用性をどのように図るべきか